

## 再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：前佛 和秀

事業名	高規格 I C アクセス 一般国道 152 号 池島～大原	事業区分	一般国道	事業主体	浜松市
起終点	自：静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家池島 至：静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家大原	延長	7.3km		
事業概要					
一般国道152号池島～大原は、高規格幹線道路三遠南信自動車道の現道改良区間として（仮）水窪北 I C ～（仮）水窪 I C 間を結び、一体となり広域幹線道路ネットワークを形成することを目的とし、静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家池島から同大原までの延長 7.3 km を整備するものである。					
H27年度事業化	—	H29年度用地買収着手	H30年度工事着手		
全体事業費	約150億円	事業進捗率	約17%	供用済延長	— km
計画交通量	3,600台/日				
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体) 1.4	総費用 (残事業) / (事業全体) 101 / 129億円	総便益 (残事業) / (事業全体) 177 / 177億円	基準年  令和2年	
	(残事業) 1.8	事業費：101 / 126億円 維持管理費：0.1 / 2.3億円	走行時間短縮便益：151 / 151億円 走行経費減少便益：24 / 24 億円 交通事故減少便益：2.5 / 2.5 億円		
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.3～1.5(交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.6～1.9(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.2～1.5(事業費 ±10%) 事業費：B/C=1.6～2.0(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.3～1.5(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.8～1.9(事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高規格幹線道路と一体的な整備 高規格幹線道路である三遠南信自動車道と一体となったネットワークとして、広域連携や地域間交流の拡大、産業振興に寄与。</li> <li>・道路の耐災害性の向上 要防災対策範囲、雨量事前通行規制区間が解消し災害に強い道路を構築。</li> <li>・走行性・安全性の確保 事業区間に点在する狭隘・線形不良箇所が拡幅整備等により解消し、広域交通の走行性と地域生活の安全性を確保。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見					
「三遠南信自動車道（国道152号）改良事業長尾（なごお）・西浦（にしうれ）地区対策協議会」から整備の強い要望がある。					
事業評価監視委員会の意見					
「事業継続」することは「妥当」である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
三遠南信自動車道青崩峠道路の青崩峠トンネル調査坑完工に続き本坑に着手					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
事業進捗率：約17% 用地取得率：約85%（令和2年度末）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
用地取得が順調に進んでおり、道路・橋梁整備においても計画的な事業進捗が見込まれることから、継続して整備を進めていく。					

施設の構造や工法の変更：

国直轄工事から発生するトンネルズリの本工事盛土材への流用や、再生資材や現場発生土の有効活用を進め工事コスト縮減を図る。

対応方針

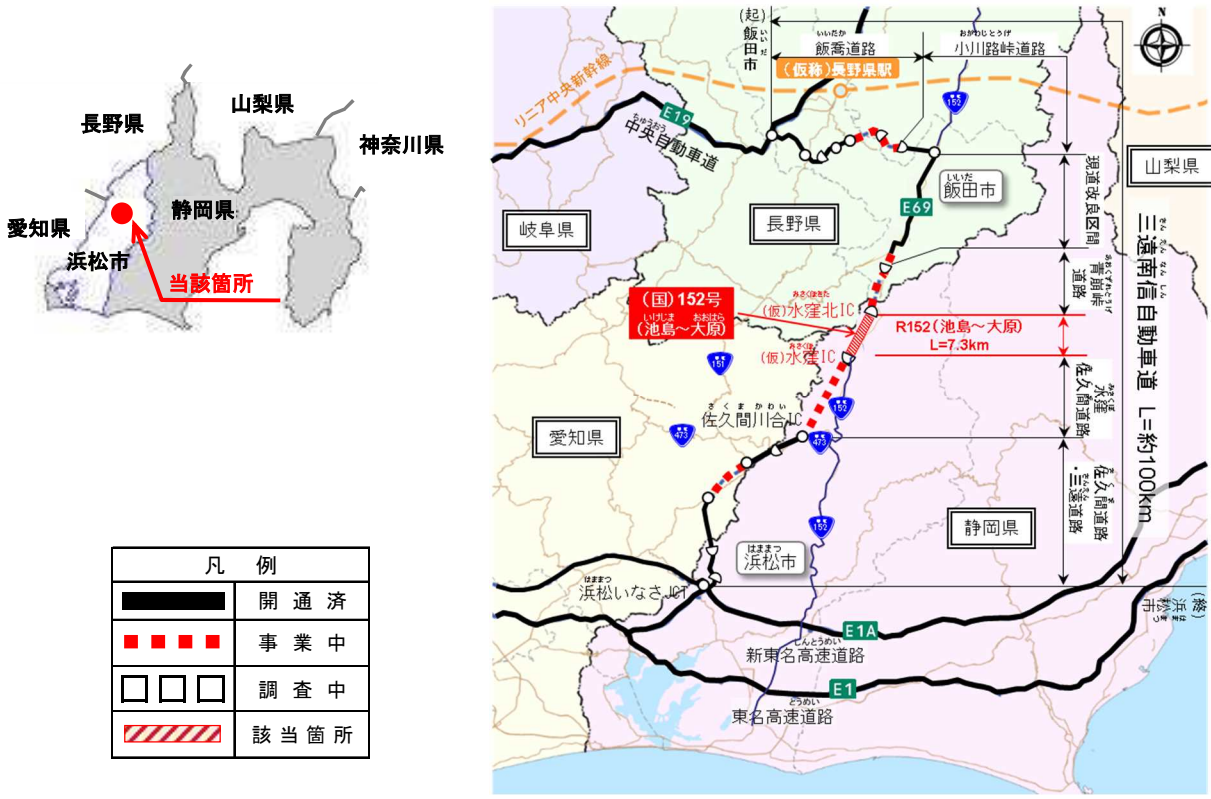
事業継続

対応方針決定の理由

事業の効果等において妥当性が確認され、事業の進捗についても特段の支障はないほか、整備により広域幹線道路及び災害に強い道路ネットワークの確保が可能となる。

以上より、事業の継続が妥当である。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。